

社会との共生

J-POWERグループは、「地域社会」および「地球規模」レベルで持続可能な社会の実現に貢献していきたくて考えています。

J-POWERグループの社会貢献について

私 たちの企業活動は、発電所などの立地地域の人々によって支えられています。従業員一人ひとりが地域においてよき住民（よき隣人）であるように、各発電所、事業所もまた地域の「よき企業市民」として、地域の人々から信頼され、親しまれ、地域とともに生き、成長することを目指します。

また、電気をはじめとするエネルギーは、毎日の暮らし、経済活動に必要な不可欠なものです。同時に、発電のためには自然環境へ一定の負荷を与えることが避けられません。人々が心豊かに暮らしていくためには、豊かな自然環境と暮らしを支えるエネルギーが両方とも必要です。エネルギーと自然環境を大切に育てる活動として、エネルギーと環境にふれあう学びの場を提供しています。

J-POWERふれあいコンサート

クラシックの生演奏を聞く機会の少ない方々に本格的な演奏を楽しんで頂こうと1992年よりクラシックコンサートを開催しています。

2007年度は小学校や福祉施設などを訪問し、6回の「ふれあいミニコンサート」を開催いたしました。

WEB ▶ <http://www.jpowers.co.jp/concert/index.html>

の仕組みを学び、電気
の大切さを感じるとも
に、地元漁協組合の
協力のもと、河川環境
と水産資源の大切さを
学びました。



水力発電を見学する児童たち

J-POWERエコ×エネ体験プロジェクト

(財)キープ協会(環境系NPO)と協働して、体験型エネルギー環境学習支援活動を開始しました。

体験・協働・学びあいをキーワードに、エネルギーと環境の実物に触れて楽しく学び、エネルギーを大切に使う心と環境を大切にする心を育みます。

WEB ▶ <http://www.jpowers.co.jp/econe/index.html>

さくまパソコン無料相談

(静岡県/開発電子技術(株)佐久間営業所)

“地域の方々のお役に立ちたい”という目的で、パソコン初級者を対象にJ-POWERグループ従業員が個人の技能を活かして2004年よりパソコン教室を開催しています。

特にカリキュラムは設けずに、何でも相談にお答えしています。これからも、この活動を楽しみにしている地域の方々のために、この活動を継続していきます。



PC教室の参加者とJ-POWERグループ従業員

水力発電と河川環境

(三重県/J-POWER尾鷲事務所、(株)JPハイテック尾鷲出張所)

地元小学校5年生(約50名)を招いて、尾鷲第一発電所見学会と銚子川の稚アユ放流を行いました。水力発電所

COLUMN

地域社会との交流・協働



J-POWERグループは、北海道から沖縄まで全国で事業をしています。全国の各機関では、地域行事・伝統芸能行事への参加や、環境保全活動、発電所開放デーの実施など、さまざまな活動に取り組んでいます。

各地に個性、特性があるように、各事業所で

はそれぞれ地域の声に耳を傾け、より社会のお役に立てるよう多様な取り組みをしています。大事なことは継続すること。これからも、「地域とともに」「エネルギーと環境の共生をめざして」の2つのテーマを心に刻んで、各地の取り組みを応援していきたくて思います。

秘書広報部 広報室(社会貢献担当) 好川 治

発電所生きもの調査隊

(沖縄県/J-POWER石川石炭火力発電所、(株)ジェイベック石川カンパニー)

一般の方を対象に発電所構内の自然林・灰捨場等の既存施設を活用した自然観察会を開催しました(2007年度開催=3回、計100名)。J-POWERグループ従業員が指導員となり、それぞれの持ち味を活かした“うちなーぐち(沖縄言葉)”で構内の鳥や樹木などを紹介しました。

これからも創意工夫を重ねながら、子供たちが自然とエネルギーに親しみを持てるような活動を継続していきます。



発電所構内の生きものを解説するJ-POWERグループ従業員

風の子塾

(熊本県/J-POWER、アサヒビール(株)、(株)グリーンパワー阿蘇)

アサヒビール(株)との共催により、(社)日本環境教育フォーラム、NPO法人「コミネット協会」や教育関係者の協力を得て、地元小学生(4校、約120名)を対象に体験学習会を開催しました。

風を感じる体験プログラムや、風力発電と阿蘇の自然について学び、地球温暖化防止の視点からマイバッグの使用や電源をこまめに切るなどの家族で取り組むエコアクションに取り組みました。

事後学習の活動成果発表では、生徒の気持ち・行動の変化が確認できました。



風速計で風の強いところをさがす児童たち

屋上緑化施設を活用した環境学習の実施

(福岡県/J-POWER若松総合事業所、(株)ジェイベック若松環境研究所)

地元小学生を対象にエネルギーと環境を学ぶ場を提供しています。2007年度は2校を対象に11回のプログラムを実施しました。



事務所の屋上緑化施設で自然観察をする児童たち

事業所の屋上緑化施設では、自然観察区画や水田による収穫体験区画も設けており、産学官民連携の環境学習支援の取り組みとして注目されています。

J-POWER黒川みんなの森

(東京都/J-POWER西東京電力所、(株)JPハイテック・開発電子技術(株)・(株)JPビジネスサービス西東京事業所)

西東京地域共生林活動の一環として、社有地を活用した里山体験学習会を実施しています。

2007年11月、事前学習の後、地元小学校5年生(約140名)を招いて、植樹体験活動と自然体験プログラム((財)キープ協会協力)を行いました。

一昨年に植樹したエノキには、既にオオムラサキ蝶の幼虫が棲みついています。都会の中の静かな里山づくりを目指して、さまざまな形の協働を図りながら取り組んでいます。



植樹を行う児童たちとJ-POWERグループ従業員

大間地層見学会

(青森県/大間原子力建設所)

地元の小中学生(2007年度は116名が参加)を対象に地層見学会を実施しました。J-POWER従業員(地質専門職)による講義や、本物の地層や岩石、今年度新たに用意した化石試料に触れることで、より身近に大地の成り立ちを感じることができたようです。



地層を観察する児童たちとJ-POWER従業員

森づくりへの参加

J-POWERグループ従業員のボランティアにより、日本山岳会自然保護委員会の「高尾の森づくりの会(東京都)」や「猿投の森づくりの会(愛知県)」などの活動に参加しています。



高尾の森づくりに参加するJ-POWERグループ従業員

地球市民としての取り組み

J-POWERグループは企業理念の「日本と世界の持続可能な発展に貢献する」という基本的な考え方のもと、海外事業を展開しています。

J-POWERは、過去約50年にわたる海外でのコンサルティング事業等を通して、発電設備をはじめとする数多くの社会基盤の整備に取り組んできました。これらの社会基盤の整備は、開発途上国にとって、経済の発展、社会生活水準の向上、貧困の解消への大きな貢献となっています。

また、こうしたインフラ整備を通じた国際社会への貢献に加えて、これまでの海外における経験とネットワークを活かし、地域に根ざした社会貢献活動にも取り組んでいます。

中国での地元小学校への教育支援

中国山西省・天石発電所は、J-POWERが中国側パートナーと合併し設立した低品位炭焼き火力発電所です。

天石発電所の立地点はコークスの産地であり、コークス生産に伴って廃棄されるボタの不法投棄により環境悪化が進み社会問題化していたなか、J-POWERは低品位炭およびボタを燃料として有効利用する本プロジェクトに参画することとしました。

本プロジェクトは、環境に配慮した資源節約総合利用型発電プロジェクトとして、中国で初めての外資案件として成立したものであり、2001年5月の運開以降、順調に運転を続けてきています。

私たちは、こうした発電所の運転を通して電力の安定供給に努めるとともに、発電所を設置する地域において、安全かつ安心そして信頼される存在でありたいと考えています。

○近隣地域の小学校への支援

中国では「児童節」（日本でいう「こどもの日」）という日が設けられており、毎年6月1日がそれにあたります。

天石発電所の近隣には4つの村があり、それぞれの自治体が小学校を設置しています。そこで、天石発電所ではこの児童節を記念日として、2005年度から、毎年一つの地域の小学生を発電所に招待し、発電所の見学および質問コーナーの開催などを実施しています。また、その他の地域の小学校に対しては、文房具を寄付することにより地元社会への貢献を行っています。

発電所の玄関には、子供たちの書いた発電所の絵が貼られ、大変喜ばれています。

私たちは、今後もこのような活動に積極的に取り組み、近隣地域への協力を継続していきたいと考えています。



熱心に見学する地元小学生

■ 中国山西省・天石発電所



① 地点	中国山西省靈石県 太原南160km
② タイプ	低品位炭燃焼 循環流動床ボイラ火力発電
③ 出力	2.5万KW×2基
④ 燃料	コークス生産に伴って廃棄される低品位炭等
⑤ 工程	1998年12月着工 2000年12月1号機商業運転開始 2001年5月2号機商業運転開始

フィリピンでの職業訓練

CBK Power Company Limited (CBK)はJ-POWERが50%の権益を有する水力発電事業会社(出力72.8万kW)で、フィリピンの首都マニラから南東へ約100kmのラグナ州にあります。

CBKでは2001年の会社設立以来、地元5自治体に対して公共施設の改善、医療ミッションの派遣、医薬品の提供、奨学制度の設立など種々の社会貢献活動を実施してきました。CBKのこうした活動は地元において高く評価されており、地元住民に対する聞き取り調査でも好意的なコメントが数多く寄せられています。

これらの社会貢献活動の一環として、産業が発展しておらず、生計を主に農業や湖水面漁業に頼っている地元地域の最大のニーズである「雇用機会の増大」を実現すべく、発電所構内にある建物を改装して地元住民向けの職業訓練を開始しました。

この職業訓練はAPEC(アジア太平洋経済協力)の枠組みのもと、(財)海外職業訓練協会を通じて厚生労働省の補助金を得て実施するもので、フィリピン・技術教育技能開発庁の協賛を得ています。

職業訓練は、①初級溶接技術養成コース、②上級溶接技術養成コース、③基礎電子技術養成コース、④建物内電気配線および電気器具取付技術養成コースの4つのコースからなっています。

2007年11月から実施したこの職業訓練には、2008年1月末で延べ人数105名の地元で職を持たない若者が参加しています。訓練を受けた若者が、ここで身に付けたスキルを活かして就業の機会をつかみ、各々の分野で活躍してくれることを期待しています。



溶接技術養成コースでのパイプ溶接実習



基礎電子技術養成コースでラジオ製作に取り組む

インド・プルリア揚水発電所が運開

COLUMN

2008年2月、J-POWERがコンサルタントとして施工監理業務を行っていたインド・プルリア揚水発電所(出力90万kW)が全台フル発電を開始しました。

プルリア揚水発電プロジェクトは、日本政府のODA案件として、バングラデシュと国境を接するインド東部の西ベンガル州に、同国初の大規模純揚水発電所を建設するものです。石炭火力が中心の西ベンガル州において、プルリア揚水発電所は夕刻時のピーク対応電源として稼働し、石炭火力発電所の運用を効率化するうえで大きな貢献を期待されています。

J-POWERプルリア揚水建設工事監理事務所では、こうした電力設備の整備を通じてインドの発展に寄与するとともに、ダム・発電所の建設以外にも地元社会に形の残る貢献をしたいと考え、トライブ(高原地帯に住む少数民族)に対する教育支援に力を入れてきました。

J-POWERは、指定カーストにおかれ貧困状態にあるトライブに対して教育を通じた自立支援活動を行っている現地NGO「VVK」の理念・活動に共感し、私たちに何かできることはないかと考え、VVKが運営する学校の電化に協力しました。また、新校舎建設に向けて草の根援助を受けるため、VVKと在コルカタ日本国総領事館との橋渡しを行いました。草の根援助を担当する総領事館からは、「援助対象を探す場合、どうしても都市部に目がいきがちで、地方の情報はなかなか入ってきません。今後は遠隔地支援の件数を増やしたいと考えており、今回J-POWERからの情報で地方の潜在的ニーズをくみ上げることができ、有意義な援助が実現できました」と評価されています。

J-POWERは、今後もそれぞれの地域に根ざした社会貢献活動に取り組んでいきます。



青空のもとで開催された開所式



開所式には地住民も多数参列